

2026年4月30日・国産LLM大攻勢と「AI主権」の行方

# 日本AIが世界水準で 勝負を始めた日

---

NII, Stockmark, Turingが証明した新時代の夜明け

# 2026年4月30日、 3つの同時多発的ブレイクスルー

**NII (国立情報学研究所)**

**LLM-jp-4公開**

GPT-4o超えの日本語性能を  
証明する基礎頭脳の覚醒。

**Stockmark**

**DocReasonerと  
欧州特許庁(EPO)対応**

グローバルな知財エコシステムへ  
直接侵入する実務AI。

**Turing (チューリング)**

**自動運転データ  
全可視化ツール公開**

ブラックボックスを排除し、  
物理世界とAIを融合。

# なぜ今、真の「国産AI」が求められているのか

2026年4月18日

## 楽天AI 3.0炎上事件

鳴り物入りの国産モデルが「DeepSeek-V3」のリブランドと発覚。偽りの国産モデルに対する社会的な危機感と不信感が頂点に達する。

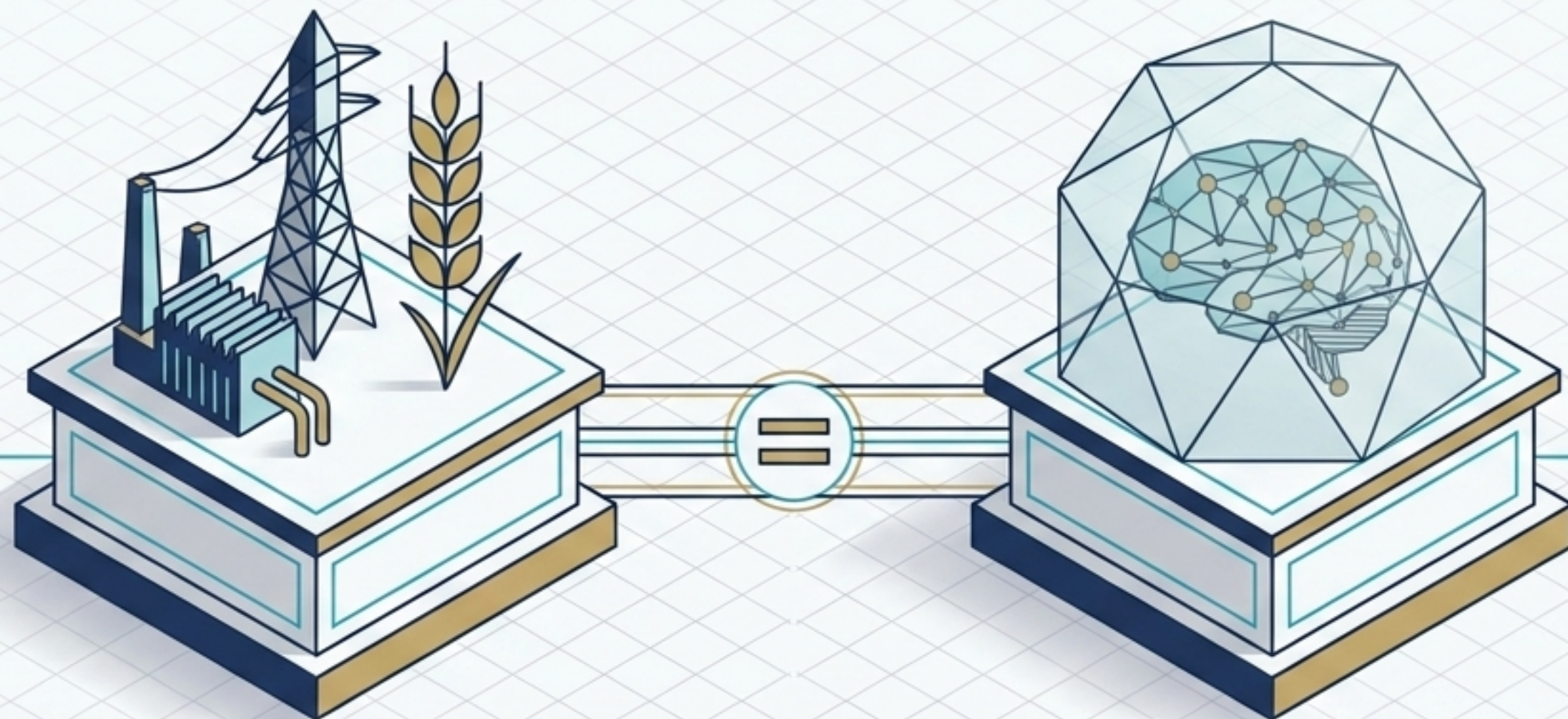
2026年4月29日

## デジタル庁「源内」本格展開

10万人規模の行政機関で生成AIの日常利用がスタート。国家インフラとしてのAI需要が確定。

「もはや、海外製やリブランドの頭脳に国家のインフラは託せない」

# 国家の命運を握る「AI主権」という概念



**エネルギー・食料**  
(かつての生命線)

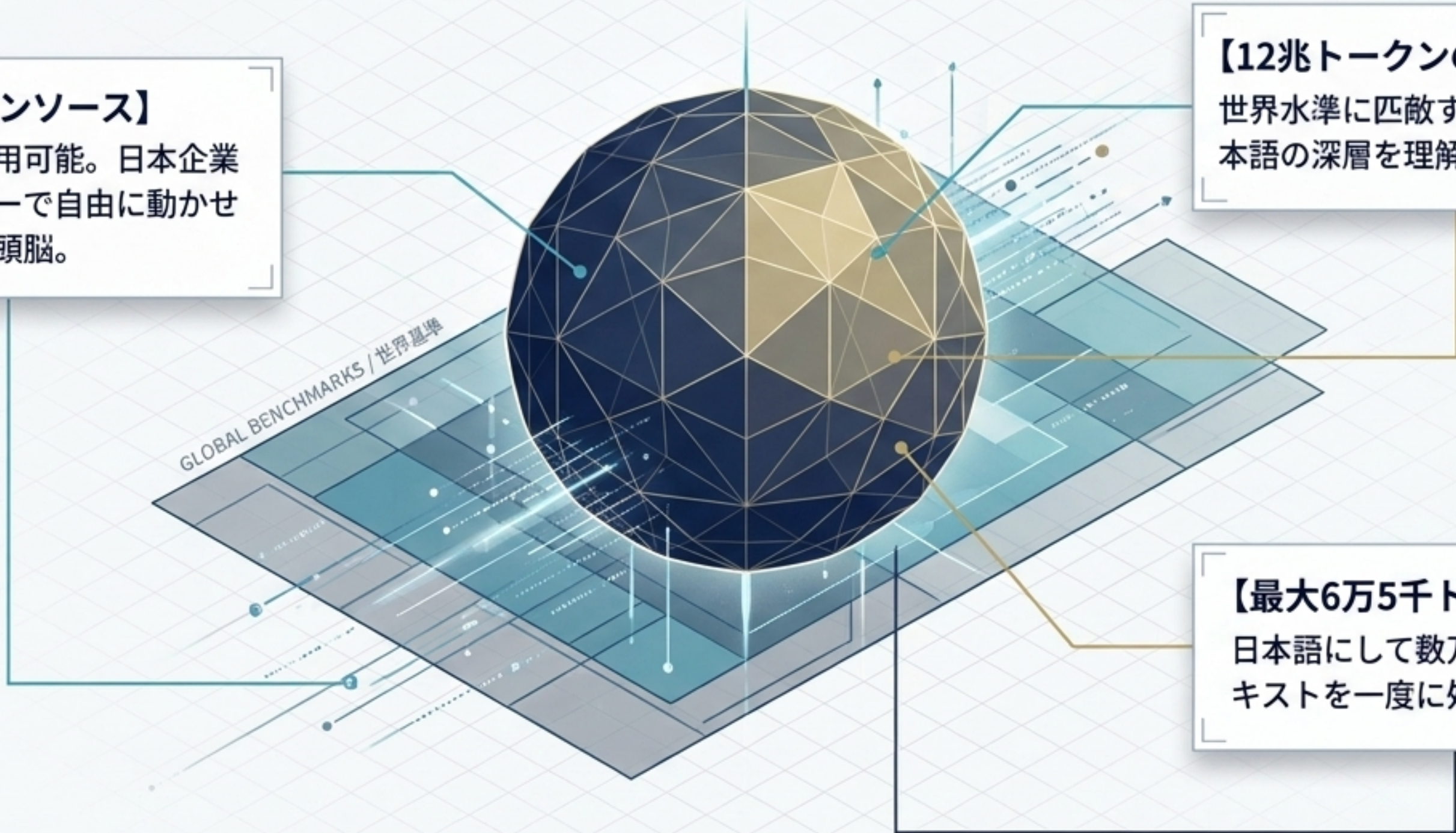
**自国のAI頭脳**  
(現在の生命線)

AIは今や安全保障と産業競争力の根幹。自国で基盤モデルを開発・保有できるかどうか、  
国家の完全な独立と自由を左右する時代へ突入した。

# 基礎頭脳の覚醒：NII LLM-jp-4の衝撃

**【フルオープンソース】**  
誰でも商用利用可能。日本企業が自社サーバーで自由に動かせる本物の国産頭脳。

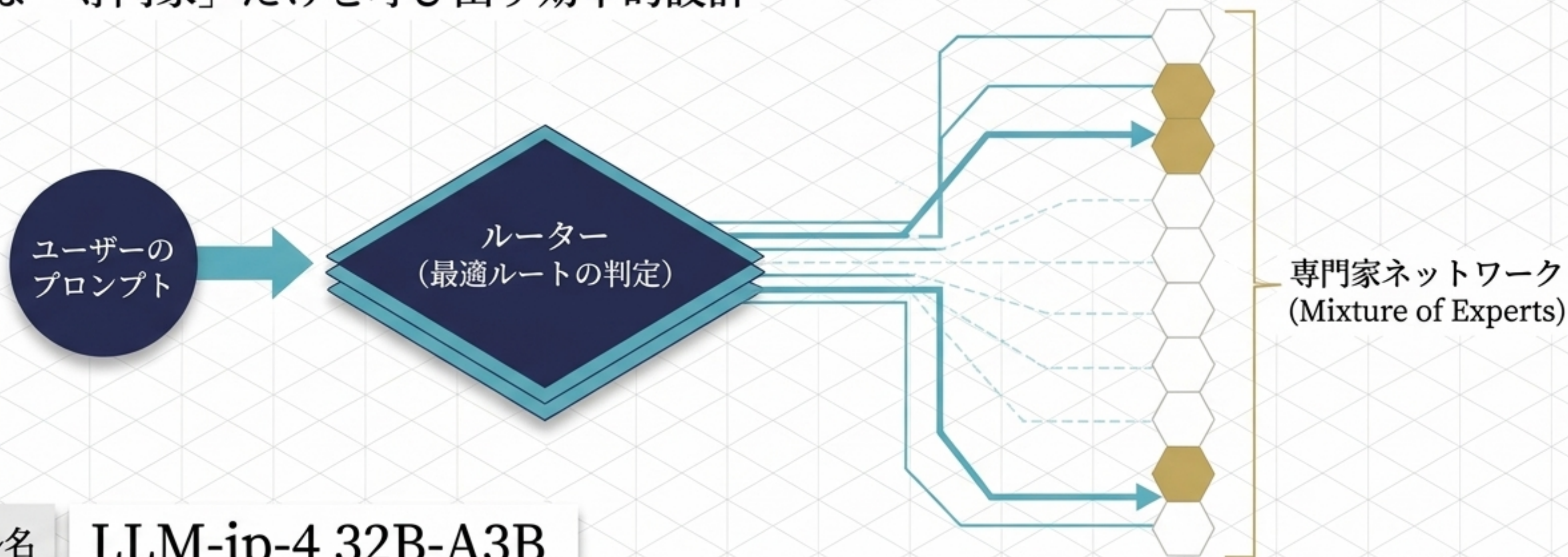
**【12兆トークンの圧倒的学習量】**  
世界水準に匹敵するスケールで日本語の深層を理解。



**【最大6万5千トークン対応】**  
日本語にして数万字の長文コンテンツを一度に処理可能。

# 巨大モデルを軽量に動かす「MoE」アーキテクチャ

必要な「専門家」だけを呼び出す効率的設計



モデル名

LLM-jp-4 32B-A3B

Specs

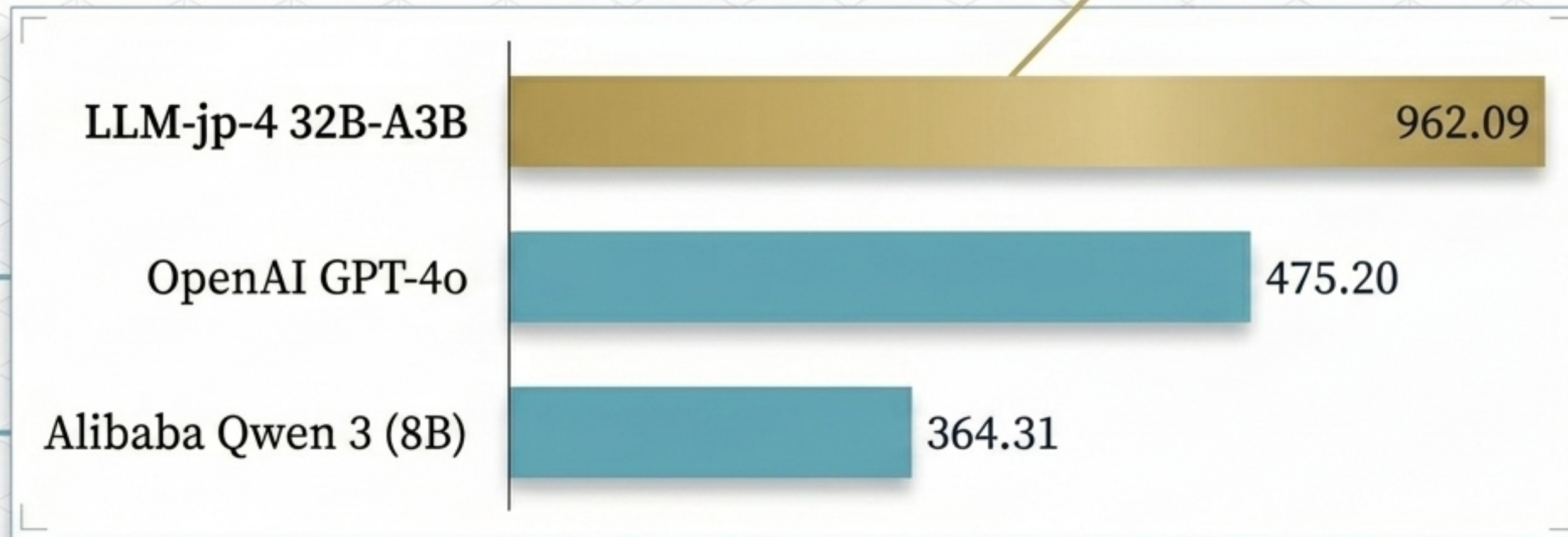
全体パラメータ320億 (32B) のうち、稼働するのは約30億 (A3B) 。

Impact

計算資源の浪費を防ぎながら、超巨大モデルの推論能力を引き出すことに成功。

# ベンチマークが証明した「海外強豪超え」

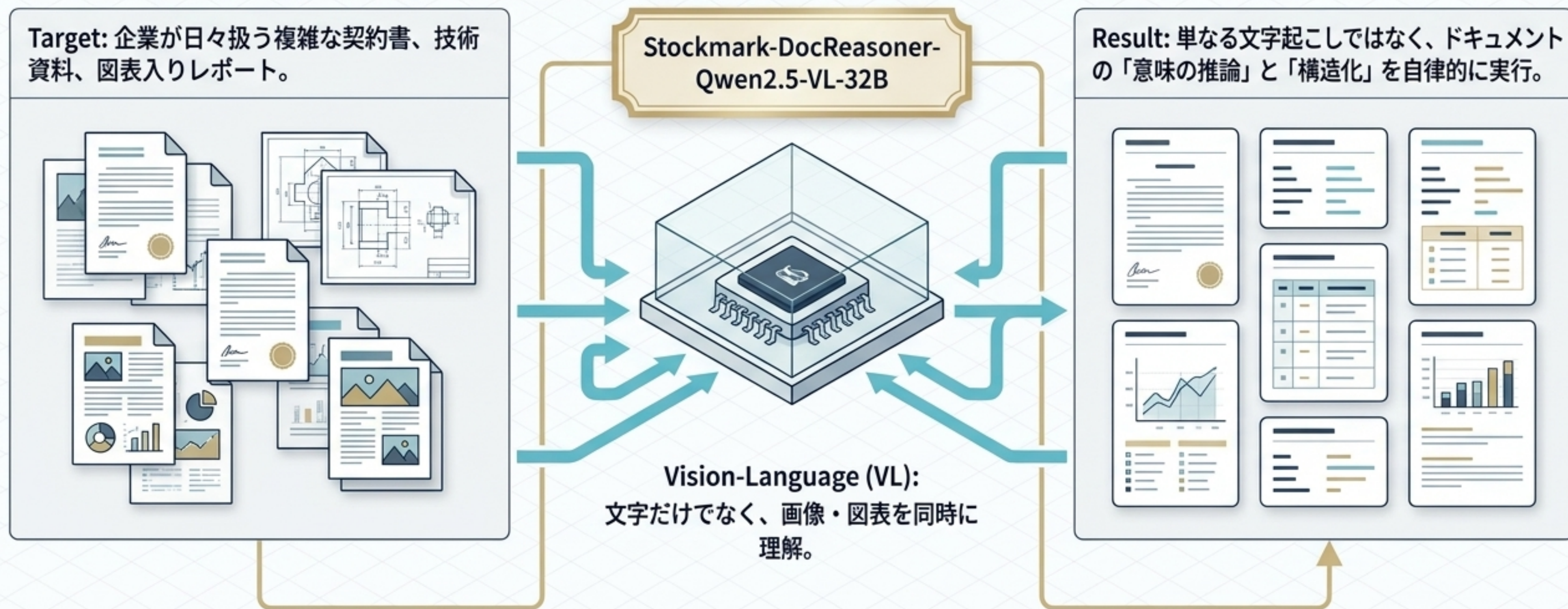
日本語特化ベンチマークスコアの比較



「オープンソースでありながら、商用の世界的モデルを凌駕する」。  
これにより、日本企業は海外ベンダーへの依存（ベンダーロックイン）から脱却できる。

# 実務への実装：StockmarkのマルチモーダルAI

テキストと視覚情報を同時に推論する「DocReasoner」



# 内向きの実証実験から、世界市場の戦いへ

4月30日・特許調査エージェント「Aconnect」が欧州特許庁(EPO)に対応。

これまでの国産AIは「国内でのPoC（概念実証）」に留まりがちだった。

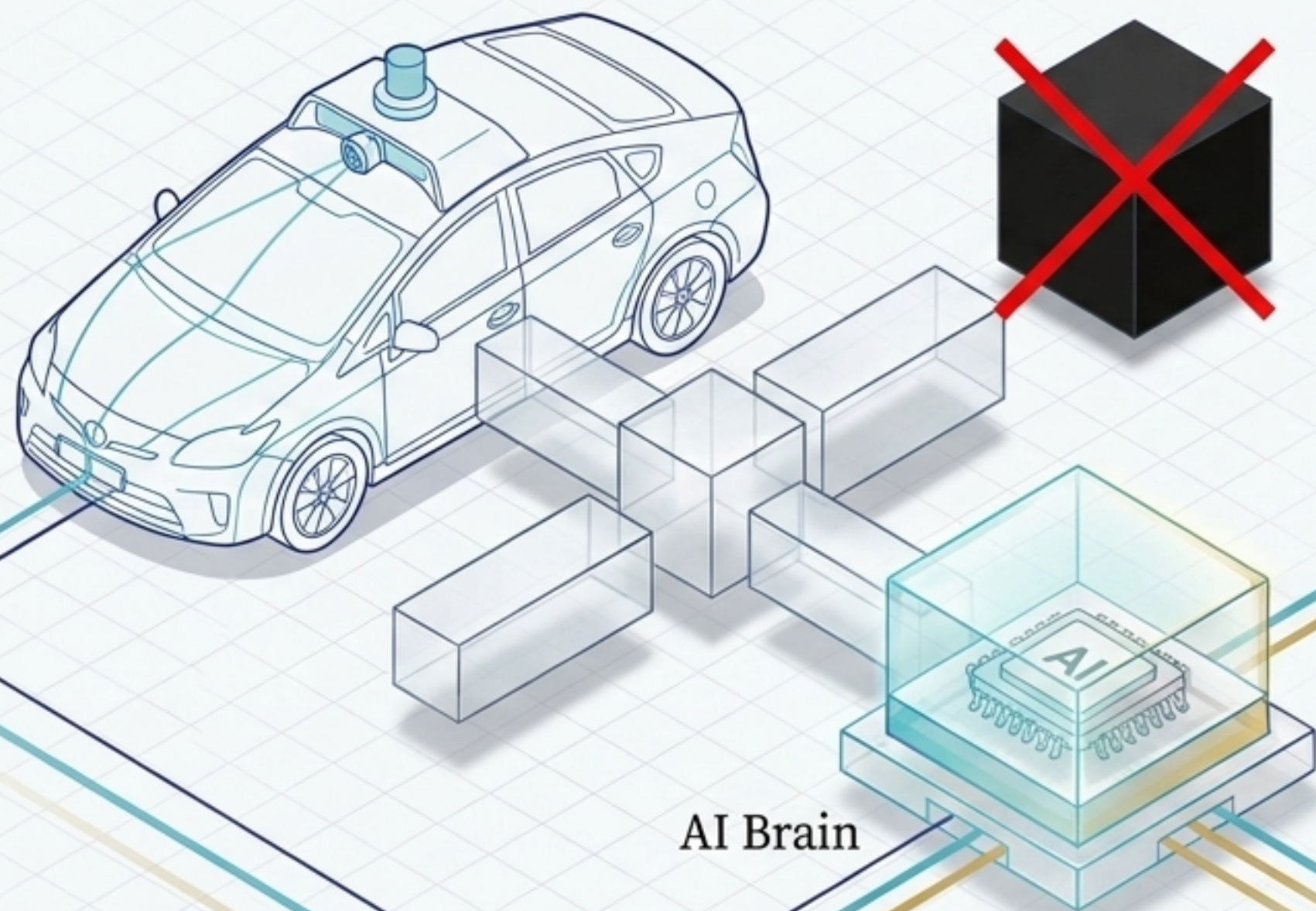
Stockmarkの動きは、日本のAIスタートアップが世界の「知財エコシステム」の中核へ直接食い込む第一歩。

国産AIがグローバル展開を本格化させる象徴的なマイルストーン。



# 物理世界との融合：Turingの「完全可視化」

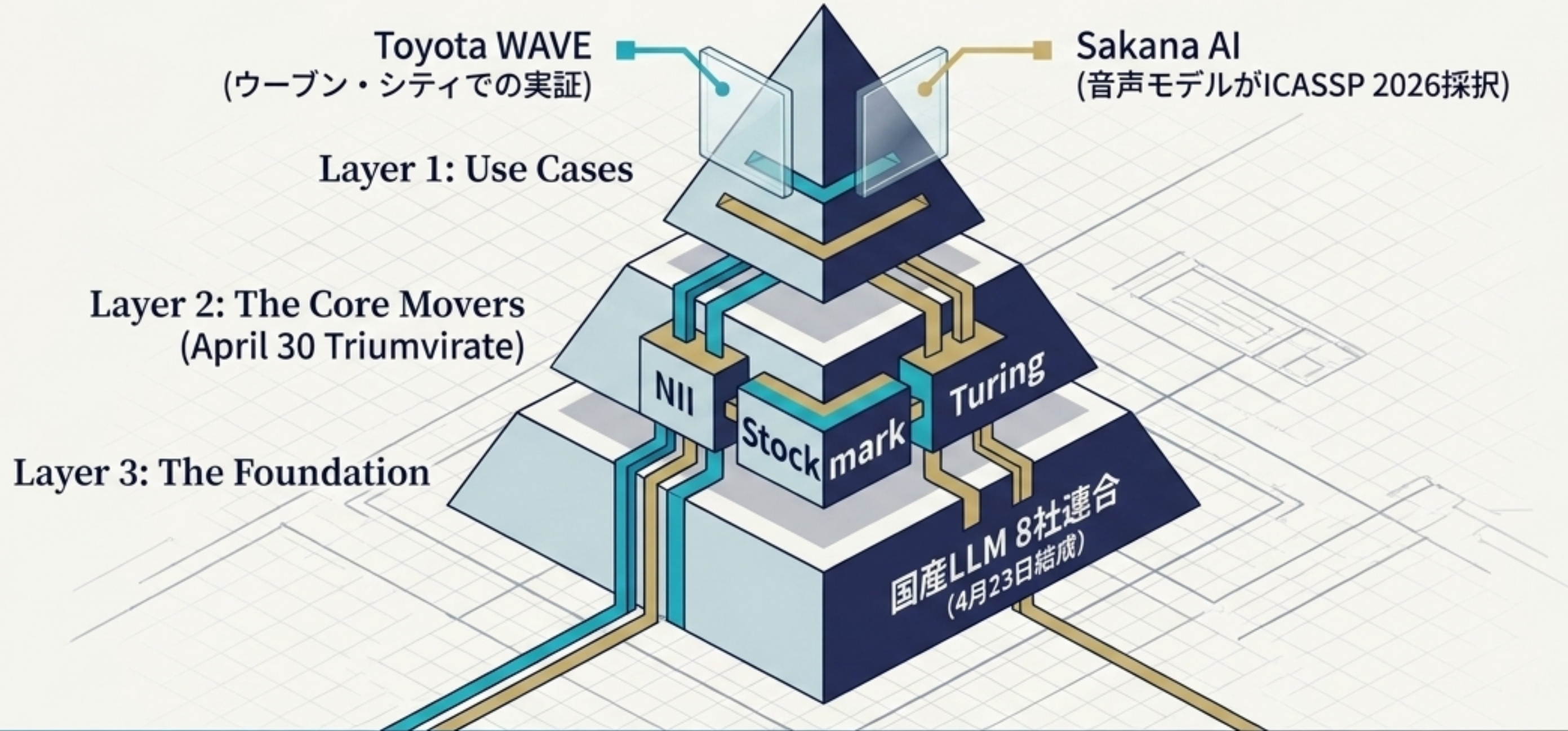
完全自動運転データ全可視化ツールとフロントエンド実装の詳細を公開（4月30日）



## Core Philosophy (Open Science)

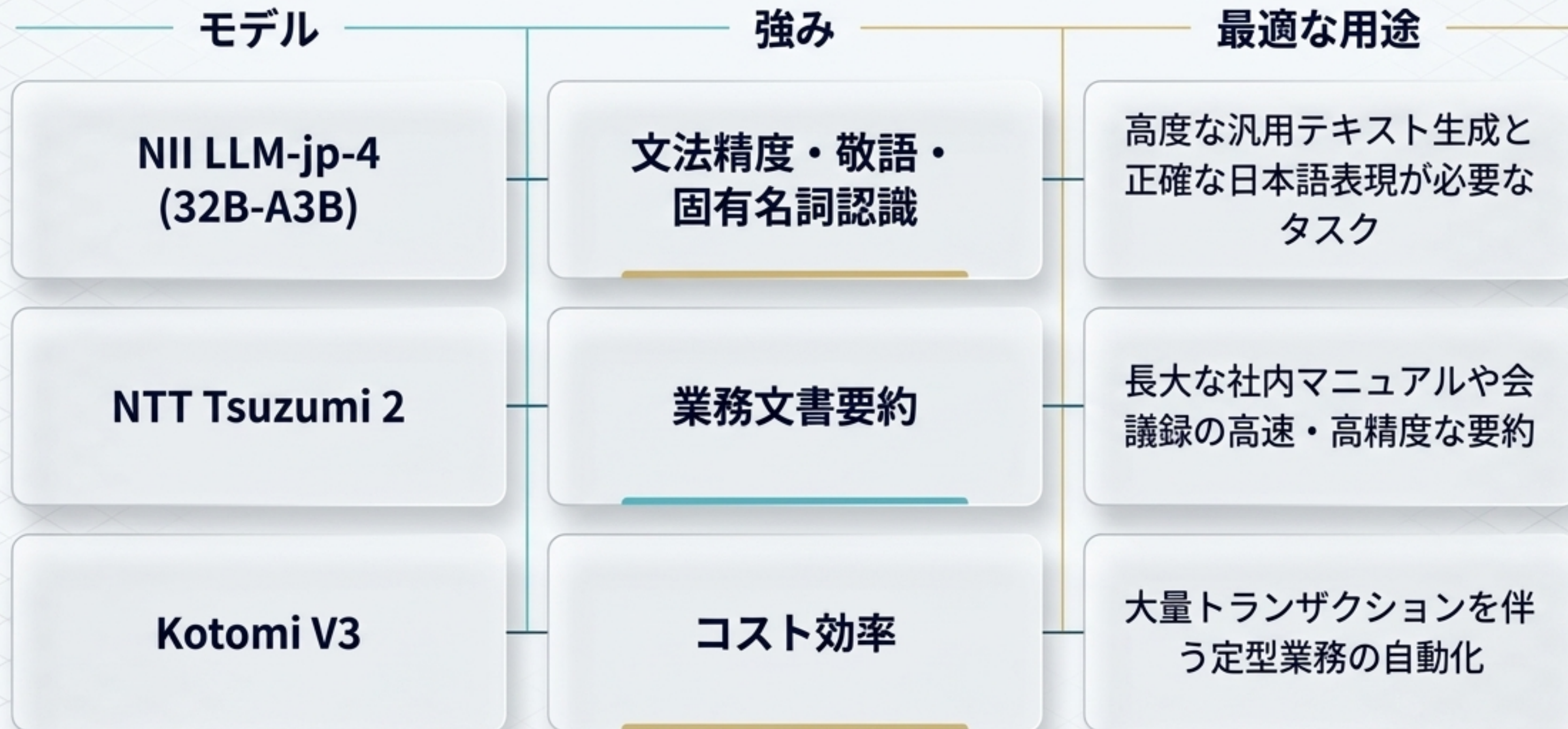
- フィジカルAIの心臓部である「膨大な走行データの収集・処理・AIへの受け渡し」プロセスを透明化。
- ブラックボックス化しがちな自動運転開発を、オープンな科学的進化へと転換。
- 開発者コミュニティ全体への巨大な貢献（ギフト）として機能。

# 同時多発的に前進する国産AIエコシステム

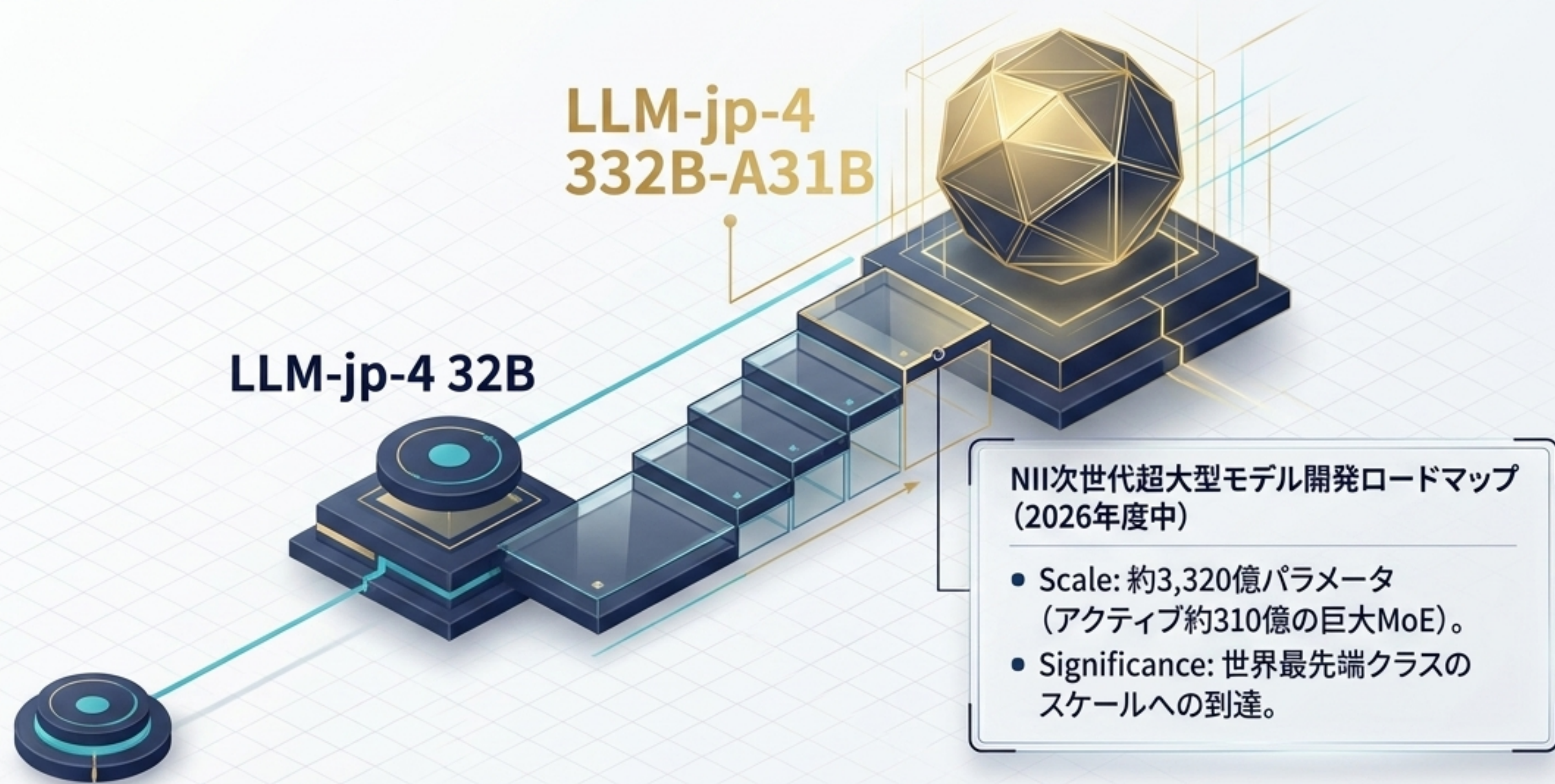


個別の研究開発フェーズは終わり、日本のAIエコシステム全体が「一つの巨大なうねり」として動き始めている。

# 国産モデルの「個性」と使い分けマトリクス



# 次なる到達点：3,000億パラメータの世界へ



今日公開されたモデルは基礎に過ぎない。海外の「最強モデル」に真正面から挑む準備は、すでに整いつつある。

# 私たちに今日からできる3つのアクション

01

## 触れる (Interact)

フルオープンLLM-jp-4を試す。エンジニアはローカル環境で構築し、非エンジニアは公開デモを活用して性能を体感する。

02

## 追う (Track)

日本の未来を左右するキープレイヤー (Stockmark, Turing, Sakana AI, PFNなど) の動向を継続的にウォッチする。

03

## 考える (Strategize)

「AI主権」を単なる技術ニュースではなく、エネルギーや食料と同次元の「自分ごと (自社の戦略課題)」として議論に組み込む。

# 選択肢の拡大が、 私たちの自由を広げる

---

日本産AIが世界水準で勝負を始めた日。

テクノロジーの自立は、私たちのビジネスと暮らしの自由度を根本から拡張します。

2026年4月30日——この歴史的転換点の目撃者から、次は共に創る当事者へ。

皆さんが期待する、真の国産AIの活用シーンは何ですか？